

群馬県立あさひ特別支援学校 学校評価一覧表③(令和4年度版)

(様式3)

羅針盤			学校関係者評価		達成度		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			①	②	総合
I 幼児児童生徒の豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	① 学校通信の発行を月に1回以上、Webページの更新を週に1回以上、地域の回覧板への情報提供を学期2回以上実施し、情報発信をする。 ② 授業参観・学習発表会、PTA総会、学部・学級懇談会等に積極的に参加している保護者が90%以上いる。	・感染症対策については、今後とも感染状況の変化に応じた教育活動について教職員や保護者、関係者等との共有理解を図りながら進めていっていただきたいと思う。		A	A	A
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	① 第2期群馬県特別支援教育推進計画に記載されている達成目標である小学部の児童の30%以上、中学部の生徒の15%以上が、居住地校交流を実施している。 ② 高等部の学校間交流について、年に4回以上実施する。	・コロナ禍にありながら、リモートを効果的に使われている。また、対面での居住地校交流を実施するにあたっては、感染予防の対策にご尽力されたことと思う。 ② 療護担当等との連携を図ることは、一人一人の指導の質を高めていく上でとても大切なことと思う。特に医療従事者ならではの見方を知ることは大切かと思う。		B	B	B
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	① 「あさひ相談(学校見学・訪問相談・就学相談)」や「あさひsununkらぶ」等の相談事業について、200件以上に対応している。	・肢体不自由のある児童生徒の指導法について、目からうごが落ちるようなお話を聞いて良かった。	・補助具をお借りして、いろいろと試してみた。母親に実物を見せながら相談できたのでとても良かった。	A	A	A
	4 肢体不自由教育に関する情報を積極的に公開・提供するとともに 関係機関との連携を深めていますか。	① 地域の各関係機関等からの相談対応に対して、相談して良かったという相談機関が90パーセント以上いる。	・いろいろな角度からのご助言をいただき感謝している。今回の相談結果をこれからの支援に活かしていきたいと思う。これらも何かあったら相談したい。		B	A	A
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	5 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	① 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成について、保護者と話し合う機会を年間3回以上設け、その内容を保護者の85%以上が満足している。 ② 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に即したきめ細かな指導について、保護者の85%以上が満足している。 ③ 全職員が児童生徒一人一人の「個に応じた指導」のツールとして、学習活動にICT(情報通信技術)を取り入れている。	・コロナ禍でもできる体験をできたことは、すばらしいことだと思う。動物とのふれあいや他校(地元小学校)との交流は貴重なもので コロナ後も継続していただけたらと思う。小学部ならではの家族が学校のイベントに参加できるよう増やしていただき、家庭でも自己肯定感の向上や思い出作りなどににつなげていただきたい。 ・個別の指導計画の作成や見直しを通じた教員間の検討会をもつことは組織的、継続的な指導に繋がるものと思う。また、その中で指導上の悩みや疑問点を出し合うことは指導の質を高めるとともに人間関係を深めることにも繋がると思う。 ・コロナ禍の中で柔軟な学習形態が実施され、その中に指導の可能性も見出されているとの成果報告は素晴らしいと感じた。 ・対面やオンラインの教育活動を実施されながら、オリジナル動画も作成されているとのことと先生方のご尽力が感じられる。	・教職員の専門性の向上については、今後もますます求められるものであり、様々な機会を通して取り組んで行って欲しいと思う。プール指導の再開も願っている。 ・対外的な活動は子どもたちに普段の学習とは違った緊張感と楽しさをあたえるものと思う。今後、感染状況を見ながら充実させていって欲しいと思う。 ・少人数での学習活動については、指導法の工夫やICT機器の活用、活動の場の拡大等、工夫を凝らして欲しいと思う。「ミラコン」の出場も貴重な経験となったと思う。	A	A	A
	6 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	① 年間指導計画の見直しを年間3回以上行う。 ② 本時のねらいに沿った評価の観点を設定し、ねらい達成を目指した指導の工夫をして、指導と評価の一体化を図った授業実践をしている教員が85%以上いる。	・来年度はプール活動(特に夏休みの利用)や宿泊学習を再開していただきたい。また、来年度は再開する活動が増えることと思う、すべてをコロナ禍前に戻すのではなく、新たなルール作りをメインに生徒・保護者・先生方にとって、よりよいものを作りあげてほしい。 ・コロナ禍をきっかけとして、指導者が日々の教育活動の意味を検証したことはとても素晴らしいことであり、継続的に行うことで指導の質も高まっていくと思う。	・1 課程の生徒の学習の工夫について、給食の献立の事例は、学習成果を直接的に感じることで生徒の達成感や意欲を高めるという面でも良かったと思う。	B	A	A
	7 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	① 児童生徒一人一人の健康上の配慮や感染症対策について、保護者の80%以上が満足している。 ② 児童生徒の健康上の配慮や指導について、教職員が医師や理学療法士等の専門職から指導を受けたり、情報交換したりする機会を年間2回以上設けている。	・新型コロナ感染症対策の徹底。他の環境より厳しくしていただいたことで安心して通学をさせられたと感じている保護者の方も多かったと思う。 ・校内での二次感染がおこらなかったことについては、とても良かったと思う。生徒、教職員、保護者の努力の結果だと思う。 ・児童生徒の健康上の配慮や指導についての医療職等の専門職との連携については保護者の評価についても同様に低い評価になっている。この評価は、昨年度も同様の結果が見られていることから、課題解決の難しさを再認識した。	・今後緩和されることが予想されるが、引き続きあさひならではの感染症対策を工夫していただき、新たなイベントを増やしたり、再開したルール作りでいったりしていただきたい。 ・感染症対策について家庭との連携を図ったことは大切なことと思う。日ごろからの信頼関係が作れていたからこそ協力が得られたと思う。	A	A	A
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	8 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	① 緊急事態(火災・水害・不審者・異物混入時・スクールバス・無断外出等)を想定した対応訓練を年間6回以上実施し、事後にマニュアルの見直しや確認を行い、全教職員に周知する。 ② いじめの未然防止・早期発見・早期対応にかかわる組織的・継続的な取組について、保護者の80%以上が満足している。 ③ 児童生徒個々の食形態に合った給食の提供と、安全な給食指導について、保護者の80%以上が満足している。	・服務規律の確保については、気持ちよく働ける職場作りが何より大切だと思う。指導方法等を巡るでの考え方の違いが表れることはよくあることと思う。お互いの意見を尊重しながら共通点を見出す話し合いを続けることが解決に繋がると思っている。 ・コロナ禍による宿泊学習やプール指導経験者の減少については、指導面や危機管理の面で課題になっていることは十分理解できる。早期の再開を願っている。		A	A	A
					A	A	A
						A	A